

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 1日

事業所名 野うさぎ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		適切な配慮をした上で状況や利用人数に合わせた人員配置を行っています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		厚生労働省による定められた適切な人員配置を行っています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	施設内に階段があるため、完全なバリアフリー化は出来ませんが、スタッフの配置、情報伝達、声掛けにより安全に配慮しています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		PDCAサイクルを心がけ毎日のミーティングや週1回の会議を行い業務改善に努めています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年1回のアンケートを基に取り組みをしています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所として自己評価を行い、事業所のホームページで公開しております。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後は第三者の立場にある方から客観的に評価してもらえ体制をつくる予定です。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修への参加や内部研修を行い支援の資質向上に努めています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリングや個人懇談を行い、丁寧な聞き取りを基に作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		子供の特性に合わせたツールを使用しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チームで意見を出し合い立案しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童の様子や状態などを考慮しながら工夫をしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日はもとより土曜日、学校長期休暇中の開所時には、目的を明確にした課題設定とイベントを企画、実行しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		職員間で現在の様子を情報共有し、必要な活動提供を組み合わせ計画を作成しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時リーダーが主となり職員間で一日の動きや送迎確認をしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時、その日の子どもの様子や支援を振り返る等情報を共有し、ケース記録に記入しています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日の出来事はその日にケース記録に残し、週1回ケース会議にて今後の改善につなげています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、見直しの必要性を確認しています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		研修時にガイドラインを活用し、活動時に反映できるようにしています。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者と児童担当者が参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		お迎え時、各学校から行事予定表をいただき時間や行事の確認をし、子どもの様子や通所日程などの情報共有しています。月1回通信をお渡しし、取り組み内容を知っていただき連携させていただいています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアの必要なお子様がいらないが、今後必要に応じて対応していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		小学校や特別支援学校(小学部)と連携を取りながら、情報共有と相互理解に努めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		必要に応じて共有しています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		事業所より個別で研修に申し込む等、スキルアップにつなげています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		インフルエンザ・コロナウイルス等感染防止の観点から、今年度も交流を見合わせるに至りました。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		地域支援会議に積極的に参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		日頃から連絡帳や送迎時に伝え合ったり必要に応じて電話連絡や個人懇談の設定、実施により共通理解しています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングには至りませんが、話す機会を多く設け日常の子育てでの悩み事を聴き親子が良好な関係であるように支援しています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○		契約時に丁寧な説明をさせていただいております。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		保護者様からのご相談は、いつでも対応できるようにし、電話連絡や訪問するなどの対応をしています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会にて保護者様同士の意見交換をして頂きました。初めてのお父さん会も実施いたしました。今後も開催予定です。日程が決まりましたら、お知らせいたします。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○		苦情があった場合には、職員間で情報共有し、速やかに対応を検討できる体制を整備しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		月1回の通信を保護者様以外にも、学校や関係機関へも発信しております。
	35	個人情報に十分注意している		○		従業員に守秘義務に関する誓約書に署名をもらっています。また日頃の会話にも注意を払うことを今後も徹底してまいります。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○		絵カードや必要な手段を用いて意志の疎通を図ると共に、お子様の成長過程において今までと違う言動などは特に注視し、直接保護者様と共有しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		インフルエンザ・コロナウイルス等感染防止の観点から、今年度は実施できませんでした。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員は研修時にも取り入れながら周知し、保護者様にはその都度お便りにてお知らせしています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		児童と一緒に避難場所の確認の為の外出や、定期的な避難訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部研修を含め、内部研修も行っております。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		現在、身体拘束が必要な児童は通所されていませんが、必要な場合には対応していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者様から投薬書や指示書のコピーをいただき、子どもの状況を確認しています。対応が必要な児童が通所された場合は速やかに連携しています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		記録を取り情報共有できるようにファイリングし、事故につながらないよう定期的に振り返りを行っています。	